

香川県社会福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会（第1回）会議録

1 日 時

令和5年6月9日（金） 15時～16時30分

2 場 所

香川県庁本館 12階 大会議室

3 出席者

（委員）

筧会長、安藤（幸代）委員、安藤（照文）委員、石橋委員、國村委員、久米川委員、佐藤委員、下河委員、辻（よしみ）委員、都築委員、豊嶋委員、藤井委員、藤田委員、松木委員
（計14人）

（事務局）

木村健康福祉部長、玉井長寿社会対策課長、佐藤課長補佐 外

4 議 題

- （1）香川県高齢者保健福祉計画の位置付けについて
- （2）第8期香川県高齢者保健福祉計画の進捗状況について
- （3）香川県の高齢者を取り巻く現状等について
- （4）第9期香川県高齢者保健福祉計画策定の進め方について

5 審議内容等

○ 分科会の運営について説明（事務局）

- （1）本分科会は、県の「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき公開とすること。
- （2）当会でのやり取りは、後日、県のホームページに掲載すること。

○ 議題1 香川県高齢者保健福祉計画の位置付けについて

議題2 第8期香川県高齢者保健福祉計画の進捗状況について

（事務局）

資料1「香川県高齢者保健福祉計画の位置付け」、資料2-1「第8期香川県高齢者保健福祉計画の進捗状況（数値目標関係）」及び資料2-2「第8期香川県高齢者保健福祉計画の進捗状況（計画第4章施策の展開関係）」に基づき説明

（委員）

議題2、資料2-2の報告について、香川県歯科医師会の取組を3つほど発言させていただく。手元にお配りした冊子「令和4年度香川県口腔健康管理と全身の健康状態、医療及び介護状況に関する調査（令和2年度調査分）」を御覧いただきたい。

資料19ページの記載にあるようにオーラルフレイル対策の取組について、まだまだ認知度が低いということで、香川県歯科医師会としては県とも連携して県民公開講座並びに

調査を行っている。調査の結果として、冊子の1ページにあるようにオーラルフレイルの定義であるいわゆる口の些細な衰え、むせる、スムーズに話せない、などが相当数、高齢者において認められた。

冊子2ページには、オーラルフレイルチェックシートを掲載している。これは歯の数や、かみ合わせの状態、口の中の清潔度・不潔度の判定や舌圧の測定、スムーズに発語ができるかなどをチェックすると同時に、指輪っかテストも加えて3つ以上に該当すればオーラルフレイルが疑われるということで、歯科外来の70歳以上の患者さんを対象に調査している。

オーラルフレイルに該当した場合には、冊子3ページ以降にある改善プログラムにより、自分でトレーニングをしていただき、どのくらい改善するかということも調査している。

結果としては冊子11ページにあるとおり、オーラルフレイルの判定者は全体の約2割であり、85歳以上では44%となるなど、当然のことだが齢が進むに連れて口の機能が衰えていくという状況が伺われる。また、高齢者がよく口が乾くと訴える口腔乾燥については、今回の調査で全体25%に見られた。これについても、更に別の調査で進めている。

このように歯科としては早いうちから、些細な口の衰えを見つけて、患者さんにトレーニングをしていただくという事業に取り組んでいるところだ。

また、資料27ページに関連して、地域包括支援センターに関する取組として、県からの補助事業で地域包括ケアシステム構築のための地域包括支援センター機能強化事業を行っている。具体的には、歯科医師や歯科衛生士が、地域包括支援センターや介護施設で開催される各種会議に出席し、介護支援専門員や地域住民からの口腔に対する相談に対応し、具体的な助言を行っている。

もう1点は資料47ページに関連して、介護支援専門員に関する取組として、介護支援専門員等口腔ケアの質の向上及び研修支援事業を行っており、口腔ケアについての疑問や質問等に対応している。

また、介護職員の口腔ケアリハビリテーションの技術等の専門性向上を図るための実地訓練に取り組んでいる。

(委員)

資料16ページの数値目標について確認したい。私は老人保健施設協議会を代表して参加しているが、資料16ページの「第3 介護サービス等の充実」の17番が老人保健施設に関する指標と考える。当該指標値について、計画策定時の現況が3,822床で、目標が3,680床とされているが、これは整備量の減少を目的としているのではなく、必要な整備量が充足できているので増やす必要はないという認識で良いか。

介護医療院のような、ほかの施設等への転換を促すような指標だとすると、団体としても心苦しいと思う。県の考えはどうか。

(事務局)

当該指標とその実績については、第8期計画の際に示した3,822床の中に、介護医療院への転換意向を持つ施設が2施設あり、その意向を踏まえて3,680床としているものだ。整備量の減少を目標としているわけではない。

(委員)

安心した。ほかの指標は、計画策定時の現況に対して目標の数字が大きくなっているのに対し、当該指標だけが下回る数字が示されていたため確認した。

(会長)

第8期計画の期間は、令和3年度から令和5年度ということで、新型コロナウイルスの感染拡大期に重なっている。そのため、15ページの進捗状況の数値データを見ると、例えば3番の通いの場への参加率や5番の老人クラブ新規加入会員数は、完全にこの頃の影響を大きく受けていることから、少し差し引いて見なければならぬと考える。

今回の第9期計画の策定に当たっては、そのような状況が一応ないと想定して考えていかなければならないと思うが、県の考えはどうか。

(事務局)

今、お話があったとおり、新型コロナウイルス感染状況もステージが変わったことを踏まえ、第8期とは少し考え方を変えた上で、計画を策定していく必要があると考えている。

(会長)

一方で、認知症サポーターの養成のように、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けずに順調に進捗している指標もある。影響はなかったということか。あるいはニーズがあってサポーターが増えているということか。どのように考えればよいか。

(事務局)

この点については、市町が積極的な御協力のもと募集していただき、受講者にも来ていただいている。ニーズはあるものと考えている。

(会長)

認知症サポーターの養成について、実際に必要とされる数から見て、養成できている人数をどのように考えているのか。より不足しているという認識か。

(事務局)

認知症サポーターの養成については、認知症のことを皆さんに理解していただくというものであり、認知症の方というのはどのような状態なのか、どのような接し方をしたらいいのかということをご皆さんに御理解いただくというものである。小中学生の皆さんにも受講していただいております、そういう意味では認知症の方に対する接し方を多くの方に勉強していただいていると思う。

○ 議題3 香川県の高齢者を取り巻く現状等について

(事務局)

資料3-1「香川県の高齢者を取り巻く現状等」、資料3-2「令和4年度県政世論調査結果（高齢者の保健福祉に関する部分のみ抜粋）」及び資料3-3「特別養護老人ホームの入所申込者調査結果」に基づき説明

(会長)

令和4年度に実施した県政世論調査の結果は、香川県に特異的な答えというより、どの県で実施してもおおむね同じような感じの答えが返ってくるような結果だったと思う。結局、自らの負担がこれ以上増えるのもかなわないが、自分自身の将来に対する不安も大きい

にあるという状況で、予想通りではあるが改めて数字で見ると、見通しの暗い結果だと感じた。

何とかフレイルにならないよう自分で予防して健康寿命を延ばそうという意欲を、大方の方がお持ちではあるが、自助努力で何とかするにも限界があると思う。

そうは言いながらも、やはり予防ということについては相当、教育も含めて取り組む必要がある。財政的にも限りがあるのが見えているが、この点は国の予算によるところも非常に大きいと思う。健康寿命が伸びなければ、社会貢献していただく方の寿命も伸びないということであり、少なくとも、これから定年がどんどん引き上げになっていく中で 70 歳を超えてもかなり働いていかないといけない、そういう社会に対応する必要があると考える。

(委員)

資料 121 ページの「特別養護老人ホームの入所申込者調査結果」について拝見すると、軒並み希望者が減少している。令和元年と 4 年に調査をしている中で、令和 4 年に関しては、新型コロナウイルスの影響を受けているようなことがあるのか。どうしても面会ができないということもあり、入所させてしまうと会えなくなってしまうという御家族のさみしさから、ちょっと待ちたいということで、申込みを控えることもあったのではないかと考える。どのような印象を受けているか伺いたい。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響はないものと考えている。

データで言うと、各年度の 4 月 1 日時点の介護保険施設や有料老人ホーム、グループホームの入所者数の数年の推移を確認したが、特別養護老人ホームの場合、平成 29 年度が定員に対して 97.1%の入所があったが、本年度は 94.8%で若干低下している。

これが介護老人保健施設の場合、平成 29 年度が約 92%だったが、本年度は 90%で同様に入所率は低下傾向にある。有料老人ホームについても、平成 29 年度頃は 87、88%ぐらいで推移してきたものが 80%と約 5%程度低下している。ここ 5、6 年については施設系サービスの入所率は低下傾向にあると言える。原因としては、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、これらは介護保険の範疇外にあるが、総量規制の対象となっていないことから、その数が増えたということもあると考える。

これらのことを踏まえ結論を言うと、コロナの影響ではないと思っている。

(会長)

非常にたくさんのデータが出てきたが、特に気になる点としては、人口動態はもうあまり予想が狂わない一番の典型的なデータであり、このとおりに着々と進むものと考えている。それに対して、県民の皆さんの抱えている気持ちが素直に表れた調査結果だと感じている。

○ 議題 4 第 9 期香川県高齢者保健福祉計画策定の進め方について

(事務局)

資料 4 「第 9 期香川県高齢者保健福祉計画策定スケジュール (案)」に基づき説明
※質疑事項無し